

補助金等評価調書 平成28年度行政評価（シート1）

所管部課名	教育部	教育指導課	作成日	平成28年7月26日	No.	28	
作成責任者(課長)氏名	小嶺 大進	作成者氏名	照屋 裕至	電話	434		
補助金等名	特色ある学校づくり推進事業奨励費補助金						
開始時期	<input type="checkbox"/> 昭和 <input checked="" type="checkbox"/> 平成 14年4月 <input type="checkbox"/> 不詳						
実施根拠	法令等の名称	平成27年度武蔵村山市特色ある学校づくり推進事業奨励費補助金交付要綱					
補助区分	<input checked="" type="checkbox"/> 定額補助 <input type="checkbox"/> 定率補助 <input type="checkbox"/> その他 (説明)⇒ 190万円						
補助金等の概要	対象: (交付先)	市内全小・中学校(平成27年度交付先:一小、二小、三小、五中)					
	補助内容: (補助基準等)	地域の特性、児童及び生徒の実態、学習指導要領の趣旨等を踏まえ、特色ある学校づくりを推進するために必要な経費を補助するものであり、上限額は190万円である。					
	意図: (目的、趣旨)	学習指導要領の改訂の基本方針に即し、創意工夫を生かした特色ある教育及び特色ある学校づくりを円滑に推進し、もって教育内容の充実を図ることを目的とする。					
	実施結果: (具体的成果) ※27年度実績	活動実績 ・一小(授業研究6回、発表会1回) ・二小(授業研究22回、発表1回) ・三小(授業研究16回、全体会3回) ・五中(授業研究12回、発表1回)					
他市等の状況	近隣市では、立川市、羽村市が実施している。						
【評価指標】							
		指標名	単位	説明・計算式			
活動指標	①	対象校	校				
	②						
成果指標	①	授業研究、発表会等開催数	回	授業研究、発表会等開催合計数			
	②	研究主題	主題				
費用・成果の推移							
		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	備考		
交付金額(千円)		1,896	1,900	1,900			
うち一般財源		1,896	1,900	1,900			
所要人員(人)		0.10	0.10	0.10			
総コスト(千円)		2,749	2,746	2,747			
活動指標	①	4校	4校	4校			
	②						
成果指標	①	53回	62回	51回			
	②	4主題	4主題	4主題	平成27年度対象校研究主題 一小「想像豊かに読み取り、自分の考えを表現する児童の育成」 二小「みんなで考えることを楽しめる児童の育成」 三小「人との関わりを大切に、豊かに表現できる児童の育成」 五中「意欲的に学び、豊かな人間性をもつ生徒の育成」		
【交付団体等の決算・予算の状況等】 ※特定団体に交付の場合のみ記載							
単位:千円		平成26年度決算	平成27年度決算	平成28年度予算	平成27年度の補助金の使途		
収入総額(千円)		1,896	1,900	1,900	交付金額(千円)	1,900	
収入内訳	市補助金	1,896	1,900	1,900	使途内訳	報償費	499
	会費					需用費	631
	繰越金					役務費	19
	事業収入					備品購入費	695
	その他					負担金	56
支出総額(千円)		1,896	1,900	1,900			
支出内訳	食糧費、交際費		2		各種割合		
	人件費				団体収入に占める補助金の割合	100%	
	事業経費	1,896	1,898	1,900	団体収入に占める繰越金の割合	0%	
	その他				交付金額に対する繰越金の割合	0%	
過去の評価経過	協議会・委員会の意見要旨	<input checked="" type="checkbox"/> 補助金等検討協議会(平成20年度) <input type="checkbox"/> 行政評価委員会(平成 年度)					
	見直し等の状況	各学校が、創意工夫を図り、特色ある学校づくりを行うことは、教育活動の充実を図る良い機会であり、引き続き補助すべきである。今後も、補助制度を有効的に活用するとともに、わかりやすい成果目標について検討されたい。					

評価項目	評価	確認項目（※ ○・×のどちらにも該当しない場合は、「－」を選択。）
一次評価	公益性	× ① 市民からのニーズが大きい。
		○ ② 補助事業に類したサービスを提供可能な機関や団体が他にない。
		× ③ 被交付者だけでなく、一般市民にも間接的な受益がある。
	効率性	× ① 補助金の内容や補助額等について、過去5年以内に見直しを行っている。
		× ② 補助額、実施手法等について、過去に他市等との比較を行った。
		× ③ 補助期間(終期)を設定している、又は設定の予定がある。
		(○の場合)⇒終期 平成 年 月
		○ ④ 必要最小限の補助であり、縮減や所得制限導入の余地はない。
		× ⑤ 補助額、補助率等の算定根拠を説明できる。
	(○の場合)⇒算定根拠 (説明)	
	有効性	○ ① 補助基準が明確である。
		× ② 補助金の成果について、具体的な数値目標等を設定している。
		(○の場合)⇒目標内容 (説明)
	適格性	○ ③ 補助金の交付により、期待された効果が得られた。
		○ ① 繰越額が補助金額を上回っていない。
× ② 補助金に依存することなく、被交付者が自主財源の確保に努めている。		
(○の場合)⇒取組内容 (説明)		
○ ③ 決算書だけでなく、帳簿や領収書等で使途の確認ができる。		
その他	－ ④ 市税の滞納がないなど、被交付者が市民としての責務を果たしている。	
	× ⑤ 交際費、慶弔費、飲食費、懇親会費の経費に補助金を充てていない。	
	× ① 補助の目的、内容及び実施時期に緊急性又は優先度の高さが認められる。	
	(○の場合)⇒その理由 (説明)	
	× ② 成果向上のため、被交付者自らが活動内容の検証、改善等を行っている。	
	(○の場合)⇒改善内容等 (説明)	
○ ③ 補助金に、市民との協働や市民の主体的な取組を促進する作用がある。		
○ ④ 迂回助成(被交付団体から他団体への、補助金を原資とした助成)は行われていない。		
【総合的意見（今後の方向性）】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input checked="" type="checkbox"/> 継 続 <input type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) ※「×」とした項目に言及しながら、所管課としての意見を具体的に記載ください。 本補助金は、各学校が特色ある学校づくりを推進する際に必要な経費を補助するものである。 各学校が創意工夫し、特色ある学校づくりに取り組み、研究発表会等を通してその成果を市内の学校へ公表することにより教育内容の充実が図られているため、今後も継続して補助する必要がある。 なお、対象が学校であるため、自主財源の確保は難しいと考える。		
二次評価	【総合的意見（今後の方向性）】 <input type="checkbox"/> 拡 充 <input type="checkbox"/> 継 続 <input checked="" type="checkbox"/> 一部見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止・休止 (説明) 本補助金は、特色ある学校づくりに必要な経費を補助するものであり、教育内容の充実を図る上で一定の意義が認められるものの、各学校が定期的に特色づくりを研究する必要性の有無について疑問が残る。 また、本補助金の効果が不透明であるため、今後は、研究成果から生み出された効果を検証する仕組みを構築することが肝要である。	
行政評価委員会意見	本補助金は、各学校の研究意識を高める上で意義があり、本市の教育内容の向上に寄与するものであるため、補助の必要性は高いものと思料する。 今後は、引き続き各学校に対する補助を継続するとともに、各学校が行った研究成果を積極的に市民に公表していくことを求めたい。	